

## 佐賀県研究成果情報

近年の温暖化条件下における早生温州の生育特性					
[ 要約 ] 近年の早生温州の生育特性として、3月の高温傾向による発芽、開花期の早期化が観察され、その影響から8月20日、10月30日時点の果実酸度の低下が見られる。また、9月以降の高温傾向から、9月以降の果実の肥大促進、日増糖量の上昇抑制傾向が見られる。					
果樹試験場・常緑果樹研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果樹	専門	栽培	対象	温州みかん

### [ 背景・ねらい ]

近年の気象条件の変化を受けた早生温州の生育特性を把握し、温暖化条件に適した栽培管理を行うための基礎資料とする。

### [ 成果の内容・特徴 ]

1. 発芽、開花期は、近年（86～02年）において早まっており（表1）、3月の高温傾向が影響している（図3）。
2. 発芽、開花期の早期化を受けて、8月20日時点の果実酸度が低下しており、10月30日時点においても1%未満となった年の割合が多くなっている（表2）。
3. 9月以降の高温傾向を受けて（データ略）、近年において9月以降の肥大が促進される傾向が見られ（図1）、日増糖量の上昇が同時期に抑制されている（図2）。

### [ 成果の活用面・留意点 ]

1. 発芽、開花期が早い年には、果実酸度の減少も早まることを留意しておく必要がある。
2. 年々の気象条件に応じた栽培管理を行うことが基本であるが、肥大、増糖曲線に応じたマルチ被覆等の対策を計画しておく必要がある。
3. 温暖化現象の進行から、発芽、開花期の早期化といった生育傾向は引き続いていくものと考えられる。

[ 具体的データ ]

表1 各年代の発芽・開花日

年代	発芽日	満開日	発芽～満開日数*
	4月	5月	
66 - 85年	11.0	16.3	28.9
86 - 02年	7.0	13.5	29.2

\* 発芽盛日から満開日までの日数

表2 各年代の生育初期、収穫期の果実酸度

年代	8月20日	10月30日	
	平均	平均	1%未満年割合(%)*
66 - 85年	3.67	1.12	10.0
86 - 02年	3.46	1.09	35.3

\* 各年代において酸度1%未満であった年の割合

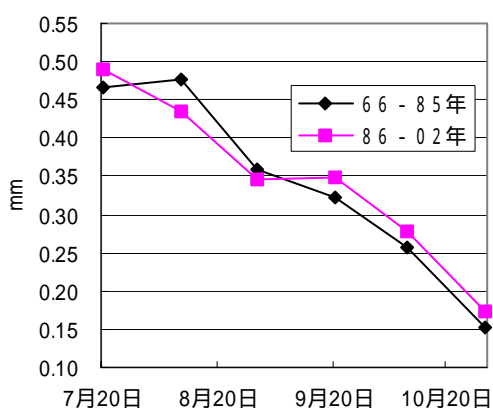


図1 各年代の日肥大量推移

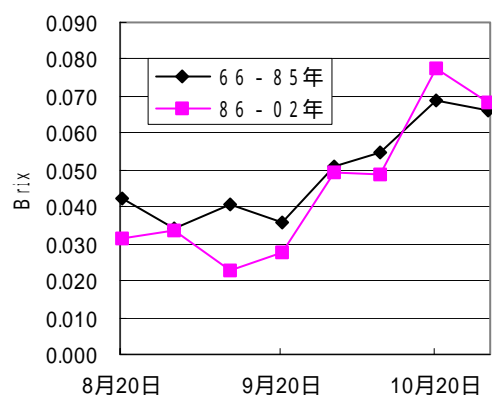


図2 各年代の日増糖量推移

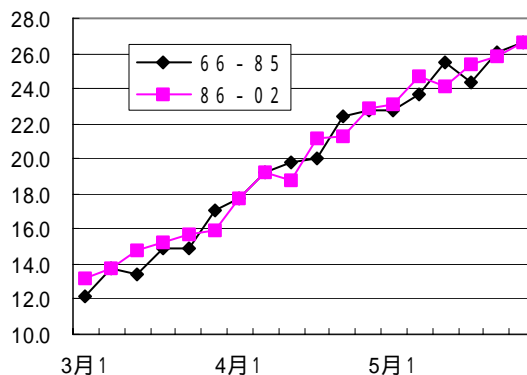


図3 各年代の最高気温推移(3～5月)

[ その他 ]

研究課題名：温州みかんの生態・環境情報収集による生育予測技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成5年～14年

研究担当者：貝原洋平、新堂高広

発表論文等：平成14年度常緑果樹試験成績概要集